

東南アジアの自然と農業研究会

第 110 回研究例会のご案内

第 110 回定例研究会を開催いたします。今回は、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の小林 知 氏に下記のように報告していただきます。皆様の多数のご参加と活発な討論を期待してお待ちしております。

記

日 時： 2003 年 4 月 18 日（金）午後 4 時～午後 6 時

会 場： 東南アジア研究センター 東棟 2 階第 1 教室

京都市左京区吉田下阿達町 46

川端通り荒神橋東詰め

話題提供者： 小林 知 氏

話 題：「カンボジア・トンレサープ湖東岸地域におけるクロムサマキ解散後の水稲耕作」

要 旨：本発表では、カンボジア王国コンポントム州コンポンスヴァーイ郡サンコー区において 2000 年 12 月～2002 年 4 月に実施したフィールドワークにもとづき、生業としての水稲耕作をポスト・ポルポト時代の農村社会の復興との関連で取り上げる。調査地はトンレサープ湖の東岸に位置し、浮稲田と移植田がみられる。生業としての農業は、カンボジアの場合は特に社会の歴史的経験と併せて論じることが不可欠であり、民主カンブチア政権（ポルポト政権）後の復興の過程がポイントとなる。同政権の革命は多大な社会的疲弊を結果し、その後を継いだ社会主義政権は、クロムサマキと呼ばれる集団農業体制の組織化によって社会の再建を指導した。しかし中央の政策とは別に、農村では 1980 年代前半から住民たちの合議による集団体制の解散がみられた。発表では、まず調査地の立地とポルポト時代以降の農村社会の復興について、1970 年代を中心とした住民の強制移住や集落の再編を中心に紹介する。次に自然環境と水田の種類、及び 1980 年代のクロムサマキ解散による農地の分配について述べる。最後に、定着村の全戸調査で得られた資料をもとに、家族を単位とした水稲耕作の現状について考察を加える。

問い合わせ先： 星川圭介 京都大学農学研究科地域計画学研究室

Tel. 075-753-6370 <mailto:hoshi@kais.kyoto-u.ac.jp>

田中耕司 京都大学東南アジア研究センター

Tel. 075-753-7307 <mailto:kjtanaka@cseas.kyoto-u.ac.jp>

ホームページ： <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/seana/>